

「二人は共に泣いた」

(創世記 3 2 章 1 節～ 3 2 節)

「エサウは彼を迎えに走って来て、彼をいだき、首に抱きついて口づけし、ふたりは泣いた」(33:4)

仲森文穂

今 日 の メ ッ セ ー ジ 要 旨

○エサウとヤコブは双子の兄弟です。父イサクの祝福を兄になりすまし、まんまとだまし取ったヤコブは、兄の復讐を恐れ、ハランに住む叔父ラバンのもとに逃亡しました。叔父ラバンはずるがしこい人で、ヤコブを何度も騙しました。兄を騙したヤコブは手痛いしっぺ返しを受けたのでした。ラバンの元で20年間も辛酸をなめたヤコブですが、神様の祝福のおかげで、故郷に帰る日、彼の財産は叔父ラバンをしのぐ程になっていました。

○故郷に近づいたヤコブは兄エサウが400人を率いてくると聞いて取り乱しました。彼は全員を2組に分け、自分と家族を後ろの組に入れました。エサウに襲われたら、前の組を犠牲にして逃げようという算段です。なぜ、きちんと謝罪しないのでしょうか。すべきことをせずにあたふたするのは滑稽ですが、私たちも時々そんなことがあるかも知れません。

エサウに会う前夜、ヤコブはヤボクの渡し場に一人残りました。そこで彼が夜明けまで神様と格闘したというのは、必死で祈ったことを指すのでしょうか。自分の計画がうまくいくようにと神様を祈り倒したかのように見えましたが、彼はももの関節を外されてしまいます。なんとこれでは、エサウから逃げられないではありませんか。自分のもくろみが水の泡になって、やっとヤコブは信じるべきは神様の憐れみのみ、その憐れみに全てを委ねてエサウに会おうという信仰の決断をしていくのです。

○次の日、ヤコブは姑息な手段を捨て、自ら前に進み出てエサウにひれ伏しました。すると兄エサウはヤコブに走り寄り、首を抱えて口づけしたではありませんか。兄は弟をとくに赦していたのです。33章4節に「ふたりは泣いた」とあります。エサウの涙は赦しと愛の涙であり、ヤコブの涙は悔い改めと感謝の涙ではなかったでしょうか。真の和解とは涙を流して、赦し、赦されることなのでしょう。

ヤボクの渡しで生まれ変わったヤコブは、今後イスラエル(①神が支配される、②神様と共にいる不屈の人)と名乗るよう命じられました。神様が共にいてくだされば、わたしたちに恐れはありません。旧約聖書にも、こんな風に赦し合う素敵なお話があるんですね。感謝です。